

家庭菜園

玉ねぎのべと病について

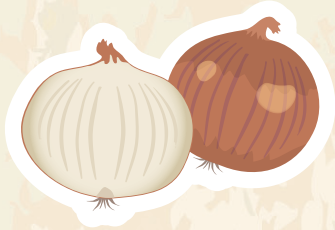
木曽岬宮農センター 平野



家庭菜園で多く作られている玉ねぎについて、近年問題視されている病気の「べと病」についてご紹介します。

べと病は、玉ねぎの葉先が折れ、黄白色になるのが特徴です。

発病する条件として、2月の気温が10℃以上あり降雨や積雪などで土壌が乾きにくくなると、病原菌(カビの一種)の胞子が発生し感染します。



対策方法

農薬散布を行うことが効率的です。(2月～3月)



予防農薬

アミスター20フロアブル、ダコニール1000など



シグナム® WDG

治療薬

シグナムWDG、ピシロックフロアブルなど

春先まで定期的な防除が必要になります。
発症している株を見つけた際は、早期に抜き取りを行い畑の外へ撤去してください。

また、来作に向けて、連作を避けることや、畝を高くし排水をよくすること、健全な苗の確保することに加え、植える前に土壌消毒(バスアミド微粒剤等)をすることなどが大切です。

べと病は未然に防ぐことが出来ます。そのためには感染前の予防散布が重要となります。発症した株があれば排除することを徹底しましょう。